

平成 28 年度分科会テーマ

「出ない（転居）対策と来てもらう（転入）対策」について

～とりまとめ～

《今までにでた意見の集約》

- ① 地域に診療所は必要である。持続していくためには、医師の確保に早めに取り組むべきである。
- ② 公営住宅の入居規制が地域に合わない。規制緩和と払い下げも含めた空き住宅の有効活用を考えるべきである。
- ③ 高齢者の多い地域である。独り暮らし高齢者を見守っていく行政・社会福祉協議会の連携体制から作ってほしい。
- ④ 小規模や地域らしさを活かした学校教育環境（学力、社会性、地域性）ができないか。
- ⑤ 独身の男女が多い。若い世代が集う機会を作ってほしい。
- ⑥ 向田ロータリーハウスや復興モデル棟、空き公共施設を有効活用するべきである。

《まとめ》

テーマ（課題）は幅広く多岐に亘るため、様々な意見がでた。住民団体や行政が、それぞれの役割の中で必要性を認識し、具体的に取組んでいくしかない。

もちろん、地域に住む者として住民団体や行政に任せるだけでなく、日頃から地域課題を意識したり、様々な取組みに対して積極的に協力・参加していかなければならない。

●具体的な内容

- ・①～④については、行政から積極的に取組んでほしい内容である。
- ・⑤については、引き続き山古志住民会議を中心に、交流機会を創出してほしい。
⇒地域の宝磨き上げ事業補助金を活用
- ・⑥については、NPO法人中越防災フロンティアから「滞在時間の延長」と「お試し居住」の観点から事業展開をお願いしたい。
⇒ふるさと創生基金事業を、助成金として活用